上川支部　活動報告

１　活動方針

第五期研究主題

『できるを実感し，やりたいと思う体育学習』

～具体的な目標をもち、仲間と共に学び合い課題を解決する～

視点１　できたが実感できる　**教材の工夫**

→　児童や生徒の実態にあった適切な工夫を行う

視点２　もっとやりたいと思う　**学習過程**

→　つまずきの予想や必要感をもたせながら設定

視点３　できたを実感し、もっとやりたいと思える　**評価の工夫**

→　見える残る評価と共に子どもたちの止まっている時間の短縮

２　活動報告

（１）「第３３回　上川管内学校体育研究大会　富良野大会」１１月１５日

●公開授業

富良野小学校　　清水　駿　　教諭　「ソフトバレーボール」

富良野西中学校　吉武　智仁　教諭　「バレーボール」

●研究発表

富良野小学校　　馬場　智章　教諭

山部小学校　　高澤　良平　教諭

扇山小学校　　土屋　洋輔　教諭

「小・中・大規模校の運動量に違い　～　歩数計による実証」

●助言者　　三浦　裕　（北海道教育大学旭川校教授）

小出　高義（北海道教育大学旭川校准教授）

中嶋　由香（北海道教育庁上川教育局指導主事）

●公開授業１　「　小学校３年　ソフトバレーボール　～　清水　駿　教諭　」

誰もが安心してできる　ルールや場の工夫をし　仲間とともに解決する中で

もっとやりたい　と思う　学習過程

○ネットを工夫したことで全ての子どもたちが一度に動くことができ、楽しそうに運動できていた。

○ゆっくりゲームとスピードゲームで子どもたちの課題が明確になるように仕組まれていた。

●教師も子どもたちも「何のために活動しているのか」見失っているように見えた。

“明確な方向性をもった課題提示”　“教師の有効な関わり声掛け”が課題

●公開授業２　「中学校２年　バレーボール　～　吉武　智仁　教諭」

トライアングルゾーン・アタックゾーンなどの
独自の教材の工夫で子どもたちにやる気を

○キャッチできる範囲としてＶゾーンを作っていたが、子どもたちが三段攻撃をするのに効果的であった。
○振り返りの後にもう一度、確認の練習を入れていて技能の上達や思考の整理に役立っていた。
●中学２年生の単元の最後で３対３で終わる単元構成になっていた。３年間を見越した単元構成をするべき。

“確かな見取りから３年間を見越した単元構成”“できる子とできない子への手立て”が課題

●研究発表　「　小・中・大規模校の運動量に違い　～　歩数計による実証　」

規模が小さいほど歩数が　多い　～教師の関わりが重要か？　～

（２）指導力向上プロジェクト

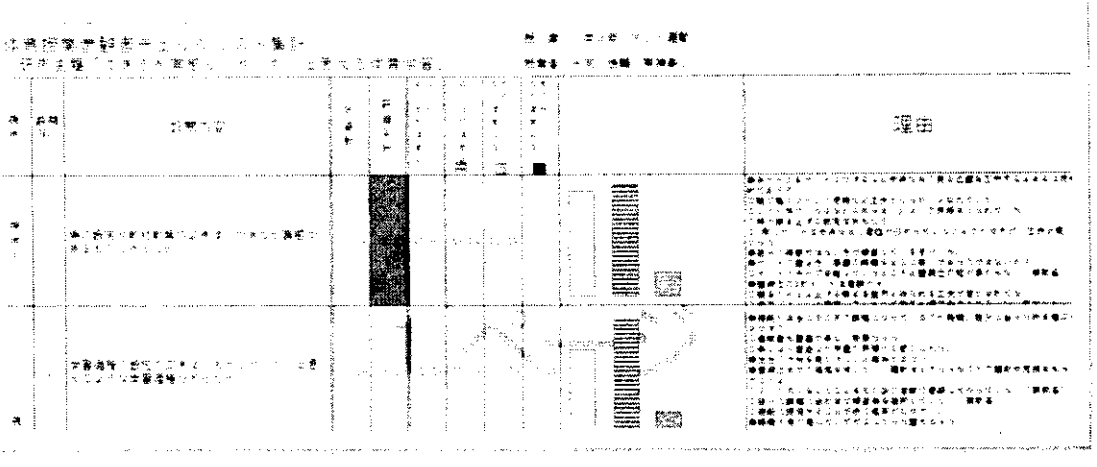
「１年に１回の授業研じゃ仲間になれない」とスタートしたプロジェクト　停滞中

（３）)校長・教頭プロディース授業

校長・教頭先生が自校の若手教員タッグを組んで授業を公開　停滞中

（４）自分の授業も研究授業も簡単チェック

上川版の授業チェックシートがちょっとだけ進化



（５）)上川体育縁日　７月２０日に初開催

お母さん先生をターゲットの中心に！　５０名を超える参加者で好評を博す

何よりも

「今さら聞けない」　と　体育で困ったことがあった時、頼れる仲間！！